



カムスターの製品ラインアップ

も業界発展の大きなカギを握っている。こうした現状の問題点をひとつずつ解決していくことが本当の意味でEBSの市民権獲得につながるのではないだろうか。

——海外メーカーの動向について。

小林 いち早く、そのメリットに着目して、国内メーカーよりも先行して導入を進めている感がある。自社オリジナルにこだわらず、パッケージ製品を積極的に取り入れてきていることも背景のひとつかもしれない。特に台湾のファブドリー企業はこうした生産管理システムへの投資を意欲的に行っているもようであり、システムの実装が進んでいるように感じている。国内メーカーも、優良なサードパーティー、装置メーカーの意欲的な取り組みがあって、現在

米テス・アドバンテジー社製のウエハーテストデータ解析ソフトウェア「Streetwise」(ストリートワイズ)を取り扱うティアテックでは、半導体デバイスに対する信頼性要求の高まりを受け、販売事業が好調に推移している。同製品は、初期不良を起す可能性のあるデバイス(アウトライア)をウエハーテスト段階で見つけるための解析ツール。アウトライアをウエハーテスト段階で見発見することで、デバイスの信頼性向上はもちろん、高額なテスト装置の削減、パインインや信頼性試験の削減に寄与する。

具体的な解析手法は大きく分けて、パラメトリック解析、マップ解析、ロットレベル解析の三つとなる。パラメトリック解析では、データ分布形状を自動的に判別し、その分布に適したアウトライア検出アルゴリズムを自動選別する。また

そのデータ分布とテストリミットとの位置関係からアウトライア選別基準を自動調節することが可能。さらにアウトライアをその品質レベルでグレード分けすることもできる。マップ解析では、ステッパーに起因するウエハー面内の欠陥検出や不良品に隣接する良品のデバイス検出(プロキシミティ解析) 集団不良の検出(クラスター検出) などをすべて全自動で行うことが

ティアテック

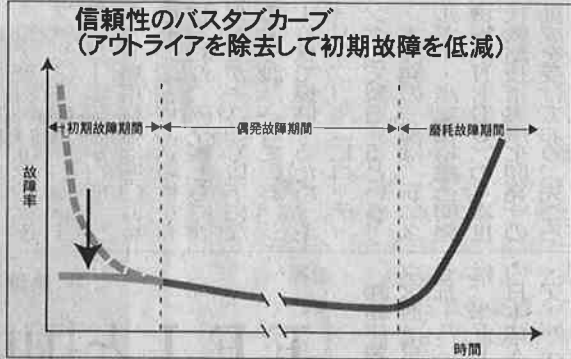
ウエハーテスト向け解析ソフトを展開

半導体工場の生産情報管理システム特集

デバイスの信頼性向上に大きく貢献している。また、他社ではこうしたアウトライアの検出システムを導入することで、初期不良率が三〇・六〇%減少、歩留まりロスは最大でも〇・六〜二・五%になることを論文を通じて発表しており、信頼性の向上とコストメリットの双方から極めて有用なシステムであることを表している。

トヨタ自動車をはじめ様々な会社で採用されており、特に大手半導体メーカーのSTマイクロエレクトロニクスでは、世界各地にある拠点に同製品を導入している。実際に初期不良は三分の一以下に低減したという。基本的なビジネス形態は、テスター一台につきライセンスというかたちで進めている。

昨今、カーエレクトロニクス化による車載用半導体の需要増に伴い、高信頼性確保の観点から同製品の引き合いが非常に強くなってきているという。今後も車載用半導体で強みを持つ日本市場を重要マーケットと位置づけ、事業展開を強化していく考え。



解析の流れとしては、テスターからのテストログデータをホストコンピュータを通して取得する。同製品の導入前と導入後と比較すると、〇・二四%のイールドインパクトでアウトライアの除去に成功しており、テ